

暑い！熱い！夏のWGの取組

みらプロ ワーキング会議ではこの夏、「先進地視察研修」と「第3回ワーキング会議」を行いました。

視察研修では“川端康成が学んだ教育のまち”大阪府茨木市と未来の授業を体感する教室「FUTURE CLASS ROOM」を訪問し、現地で先進的な取組を学ぶことができました。

また、学校閉校日明けの8月19日には第3回のワーキング会議を開催し、次の4つのテーマで活発な議論を交わしました。

- ① 先進地視察研修のふりかえり
(8/2(金)茨木市教育委員会・内田洋行「FUTURE CLASS ROOM」での研修)
- ② 長浜の子どもたちの現状について
(平成31年度全国学力・学習状況調査の結果より)
- ③ 長浜の子どもたちに育みたい力(「未来をになう力」)について
(これまでのWG・懇話会の協議より)
- ④ 「未来をになう力」の見える化について
(平成31年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙項目を用いた指標より)

(1) 先進地研修のふりかえり

- 教育委員会と現場のしっかりした連携や中学校区毎の取組の充実等、市全体が一体となつての取組がよかった。
- 保幼小中連携の取組について、市内でやっているところとやっていないところがあるが、先生方が顔見知りになって、授業や子どものことを話し合う事はよいこと。負担にならない範囲で小中の教員が顔を合わせる機会があればよい。
- 「未来の教室」のようなICT環境整備は現実難しいとは思うが、最先端を知っておくことで、今後取捨選択するのに役に立つと思う。

(2) 長浜の子どもたちの現状について

- 国語が弱い。算数もきっと問題を読めていないから全国平均より低いと考えると、やっぱり国語だなということになってくる。
- 何字以内で考えをまとめるなどの取組を続けてきたが、今ひとつ成果が上がらない。頻度が足りないのか、今までの取組をもう一度見直していきたい。
- 漢字の書き取りの数値が低いことにショックを受けている。日々漢字についてはドリル的に練習を重ねているのだが、身につけていないということは基礎基本ができていないのか、文脈に応じた漢字が書けないということは応用的な力が弱いということなのか、精査していく必要がある。漢字の学習の仕方についても見直していく必要がある。
- 間違いの多かった漢字に「対象」があったが、普段は10問テストなどをやっているときは多分書ける。なぜ書けなかったのかというと、「対象」という言葉の意味がわかっていなかったのか、活用できていなかったのではないかと思う。
- 学力調査で求められている力が必要なら、学校での普通の授業をごろっと変えていかないといけない。単元テスト(特に小学校で活用している市販のテスト)と学力調査があまりにも違いすぎていて子どもたちには抵抗がある。
- 学力調査、学校の授業が別々のものになっていて、学力調査の対策をするという今や

っていることにプラスしてそれをやらなければならないわけで、先生たちの負担感が増していく。今までやってきたことを変えようという先生の抵抗がある。どっちつかずになっている。

- 学力調査の結果を見て、何とかしなければと思うが、実際自分の学校で何をすればいいかわかっていない。他の学校の先生もそうなんじゃないかなと思う。変えるならみんなまで変えていかないと難しい。
- どういう授業がよいのか、学力調査上位の県・学校ではどういった授業をしているのかを知りたい。
- 教師の評価はもちろん、子どもたち自身の評価も変える必要がある。例えば、書いたものを交流して読み合う時間でも、「声が大きくてよかったです」とか「丁寧に書けていてよかったです」みたいなものが多くて、内容に迫る評価にまでいっていない。評価が変われば授業が変わり、授業が変われば評価も変わる。セットで考えていきたい。

(3) 長浜の子どもたちに育みたい力について

- 学校で培えるのは、土台になる「学ぶ力」だ。受験があって、それを乗り越えて就職をし、将来を切り拓いていくことが大切だが、そもそも、忍耐力や目標を持つこと、生活力等のベースが整っていかないと受験にも向かっていけないと思う。そういう土台を地域、家庭、学校で作っていくことで、初めて見える学力のところに踏み込んでいけると思う。
- 世間一般と教員の学力の捉え方のイメージが違う。一般的に「学力」というと点数化できるもの、いわゆる勉強といわれるものだ。それに対し、「学ぶ力」というのは、人の一生を営む力、子どもたちに身に付けさせたい力だと思う。肝になるのが、自立・自律。自立は、自分の人生設計を立て、取捨選択しながら生業を立てる力。自律は、自分をコントロールする力、辛いことがあっても立ち向かっていく力。こういった力を育むことを大事にしたい。
- 現状、見える学力でいうと長浜はまだしんどいところを指摘されていると思うが、将来的には子どもたちが自立して今ある現実の世の中を生き抜く力をつけてあげたい。将来を見通す中で、見える学力も見えない学力もバランスよくつけられたらよいと思う。

(4) 「未来をになう力」の見える化について

- 質問紙に基づく指標の下がっているものに着目した。「夢や目標を持っている」で、小学生62%が中学生36%に下がっている。夢が抱けない子に動機付け（モチベーション）をしてあげることが大事ではないか。持っても感じていないこともあるのではないかと、自分で気づけるためのアドバイスをしてあげることが大事だ。
- 失敗を恐れず挑戦し夢を持つことについて、考える機会を設定することも大切。立志式の先輩の姿のように、「こんなことをやってみたい」といった好奇心の持てる子を育てる。好奇心を伸ばす学びをしていくことが夢につながる。

今回のWGでは、学力・学習状況調査の結果や懇話会の意見をもとに、向上すべき「学力」をどのように捉えるか、これから将来にわたって求められる「学力」とは何かについて様々なご意見をいただきました。

次回のWGでは長浜市がめざす学力について整理し、学力向上の取組を進めるための具体策について検討していきます。

本プロジェクトについては長浜市のホームページでも随時情報発信を行っています。
ワーキング会議について：<https://www.city.nagahama.lg.jp/0000006550.html>
懇話会について：<https://www.city.nagahama.lg.jp/0000006884.html>